

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[42]歳、勤続年数[20]年、現場経験年数[12]年、階級[消防士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[34]歳、勤続年数[10]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [機関員]
○当事者C	年齢[23]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	ABC	傷病者(ストレッチャー)と夫を車内収容し、Bがリアハッチを閉める。	
経過2	B	方向転換しようとCを誘導に残し、Bは運転席へ移動する。	
経過3	C	車両右後方へ車両誘導の配置につく。	
経過4	C	関係者に同乗を求められ、リアハッチを開け関係者を車内へ乗せる。	
経過5	C	Bに状況を伝えたつもりだったが、確認はしていない。	
経過6	B	ルームミラー、サイドミラー、バックモニターは確認していない。	
経過7	B	誘導員に合図を送らず、リアハッチが開いたまま後進を始める。	
経過8	C	関係者が立位のまま、リアハッチは開いていたため、Bに静止を呼びかける。	
経過9	B	Cの静止を聞きブレーキを踏むが、関係者がバランスを崩し路上へ転落する。	
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できなかった。危険事象の対応方法を知らなかった。集中力、注意力がなかった。指揮者が適切に指示しなかった。後方からの監視が行き届いていなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。他隊(員)から適切な注意を受けられなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

部隊の中で自分のやるべきことが理解できていれば焦りは減るので、活動根拠について教養を実施する。しかし、頭で理解するだけでは行動が伴わないので、訓練を実施する。
安全確認の最低確認事項を決め、救急車内に明示する。

○装備・資機材の対策について

バックモニター及びバックブザーの積極的活用。

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

指示をして終わりではなく、隊員間の復唱を確認する。隊員が現場活動に不安があれば、隊長及び運転責任者に確認をする。方向転換時に、運転責任者と意志の疎通が図れていないと隊員が感じた時には、曖昧にせず、確認を取ってから誘導をする。あくまで、誘導は隊員の合図で始めることを徹底する。

